

「拾石川を渡る名鉄電車」
(拾石町大海)

拾石川は、三ヶ根山北側にあたる吉良町の東端から始まり、三河地震の震源となった深溝断層に沿った幸田町逆川地区を流れ、中流で幸田町深溝地内の水を集めています。



この地は、海水位の高かった平安時代には広く奥深い入り江になっており、その先端は幸田町海谷まで延びていたようで、海谷ではアサリが採れた伝説が残っています。大昔の蒲郡地区と形原・西浦地区はこの入り江でへだたり、その交流は陸路では海岸に沿って海谷を経由していました。また、海路では犬飼港から形原音羽港への渡船であったと思われます。

その後、鎌倉時代以降の海退現象で入り江が陸地化したためこの地は、拾石川の水利に支えられた豊かな穀倉地帯となりました。また、電車や道路を通じ多くの橋が架かって今に至っています。

この絵は、幸田町との境界に近い野田橋から川下を眺めた景色です。千年前には海だったこの地は、今や桜の時期の隠れたスポットで、青い鉄橋に赤い電車が通ると美しい景色が引き立ち、これを絵にしました。実は、桜の散った後から若草の色が鮮やかになるのですが、この絵には若草色を意図的に多くして桜のピンクと対比させました。



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野 幹 義

「新たな出逢いの時・イペ&ジャカランダ」

春は旅立ちと出逢いの季節でもあります。庭木の世界にも新しい仲間が花を咲かせ、思わず足を止めさせられることが多くなってきました。

イペは南米原産で春に鮮やかな黄色の花を咲かせる高木です。花色は他にも白や紫があります。材は高硬度で耐久性・防腐性が高いため港のウッドデッキなどに使われています。水に入れると沈むので不思議な感じがします。



ジャカランダ

ジャカランダも南米原産の高木で、現地では雨季と乾季の間の葉のない時期に「紫の雲」と呼ばれるほど一面に花を付けるようです。日本では葉を付けた状態で、初夏に咲きます。以前から観葉植物として、種が販売されており、室内では育てることができました。私は試して庭植えしてみましたが、雪と霜でやっぱり枯らしてしまいました。しかし、昨年久しぶりに庭植えした苗は、地球温暖化もあり、雪も無かったため新芽を出しそうです。二つの花はともに独特の扁平したラッパ咲きで、異国の花といった感じを受けます。

いつかさかさまの木と呼ばれる、バオバブの種を植え、「なまけものが、まだ小さいからといって、ほうりっぱなしにしていた星」の続きを見てみたいと思います。

目次 Contents

市役所の仕事 見直しています	3
平成21年度当初予算が決まりました	4-5
レジ袋の有料化と指定ごみ袋制の導入	6
介護保険料が変わります	7
国民健康保険からのお知らせ	8-9
児童手当などの申請をお忘れなく	10
妊婦の皆さんが安心して暮らせるまちをめざして	11
MYスクール・図書館だより	12
まちの達人・読む水族館	13
遊びにおいでよ児童館へ	14
健康カレンダー	15
市民相談	16
お知らせ	17-29
クイズまちがいさがし	30
ふれあい宅配便	31
市制施行55周年記念式典	32
こどもミュージアム	32



イペ